



# 循環産業の国際展開に係る海外でのCO<sub>2</sub>削減に向けた実証支援事業

平成28年度要求額  
150百万円（150百万円）

## 背景

- 途上国を中心に廃棄物問題が深刻化  
例：東南アジアにおける焼却処分場建設計画の増加（シンガポール、ベトナム、マレーシアなど）
- 地球温暖化対策の側面からも、ごみ発電、メタン利用、燃料化等による廃棄物のエネルギー代替利用等への期待の高まり
- 途上国における廃棄物・リサイクル分野の温室効果ガス削減技術（コベネフィット技術）の確立が必要

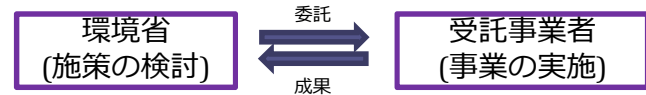
## 目的

- “現地の事情・ニーズ”と“我が国循環産業の強み”を照らし合わせ、効果的に廃棄物・リサイクル分野のCO<sub>2</sub>削減技術を確立
- 本事業の成果を将来のJCM事業につなげるなど、廃棄物の適正処理とCO<sub>2</sub>削減の同時推進（コベネフィット）
- 我が国の先進的な循環産業の国際展開を促進

## 事業概要

循環産業のCO<sub>2</sub>排出抑制に資する国際展開事業の技術確立に必要な実証研究事業（150百万円×1件）

## 事業スキーム



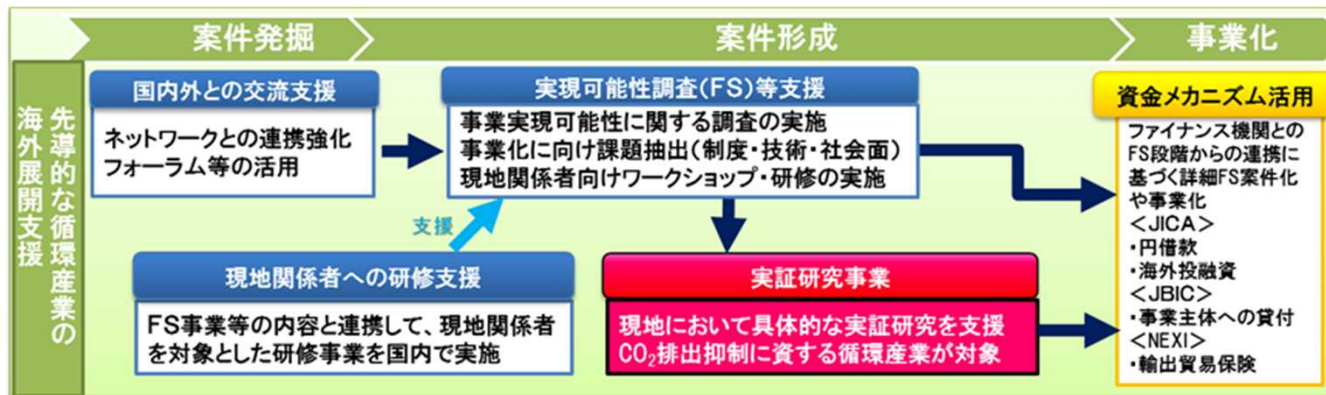
実施期間：平成26年度～平成28年度（一事業 最大3年間）

## 期待される効果

- 実現可能性調査等と連携し、本事業の成果を将来のJCM案件形成に活用するなど、効率的、効果的に技術を普及。
- アジア地域において課題である廃棄物問題の解消とCO<sub>2</sub>削減を同時に実現
- 我が国循環産業の国際展開促進、及びそれを通じた我が国経済の活性化

## 国際展開の流れ

※赤色：本事業の実施部分 青色：環境省一般会計事業 黄色：他省関連事業



## イメージ



野積みされたごみの中を裸足で有価物を回収する人  
出典：（財）日本産業廃棄物処理振興センター資料